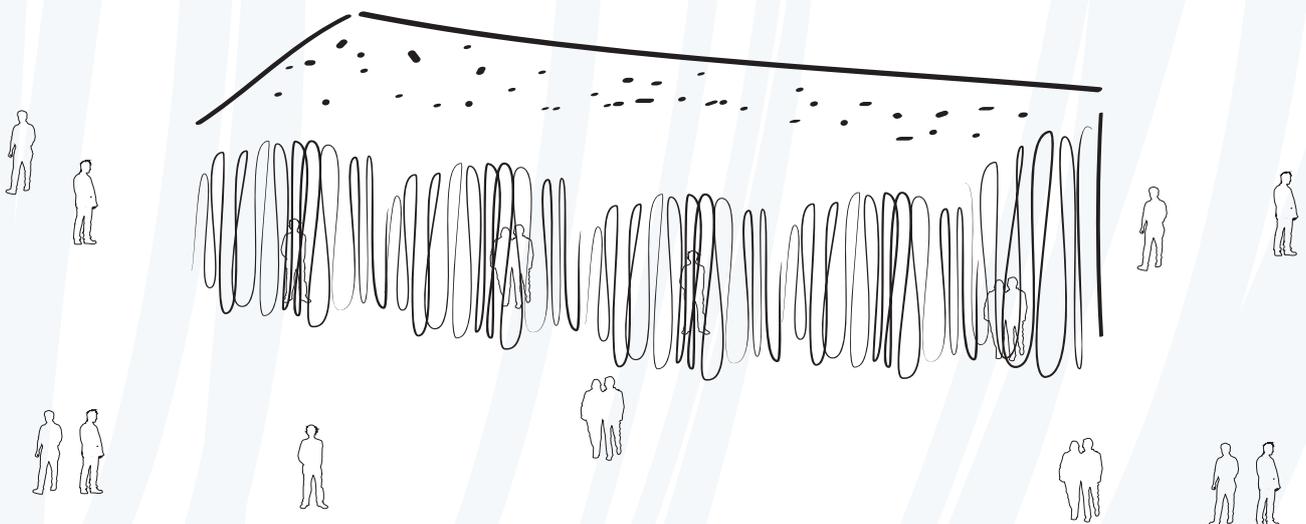




プレス資料 2025年大阪万博に おけるポルトガル



私たちの生活のための未来社会のデザインにおける海



「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、4月13日から10月13日まで日本の大阪で開催される万国博覧会には、160か国以上から2,800万人以上の来場者が見込まれています。持続可能な開発目標 (SDGs) と日本のソサエティー5.0戦略の推進を目的とした2025年大阪万博は、大阪湾に浮かぶ155ヘクタール以上の人工島夢洲を会場に、「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」の3つのエリアで開催されます

海洋とその保全に参加の焦点を当て、ポルトガルは2025年大阪万博の運営組織に対して、SDGs14「海洋と海、海洋資源の保全と持続可能な利用」を主要目標として、SDGs7「信頼できるエネルギー源へのアクセス、持続可能な開発を確保する」を副目標として、深く掘り下げる提案をしました。これと同時に、ブルーエコノミー (海洋経済) に関連するテーマとの連携を確保します。

欧州連合の海域の48%を管轄し、170万平方キロメートルに及ぶ世界最大の排他的経済水域を有するポルトガルは、今日、海洋の保全、知識、防衛、「活用」を含む海洋ガバナンスに関連する課題において、より大きな責任を担っています。この歩みは1998年にリスボンで開催されたExpo'98で始まり、海洋というテーマを国際政治の議題に取り上げ、2022年にポルトガルの首都で第2回国連海洋





会議が開催されることで強化されました。持続可能な開発目標 (SDGs) において海洋をテーマに含めるために重要な貢献を果たしました。

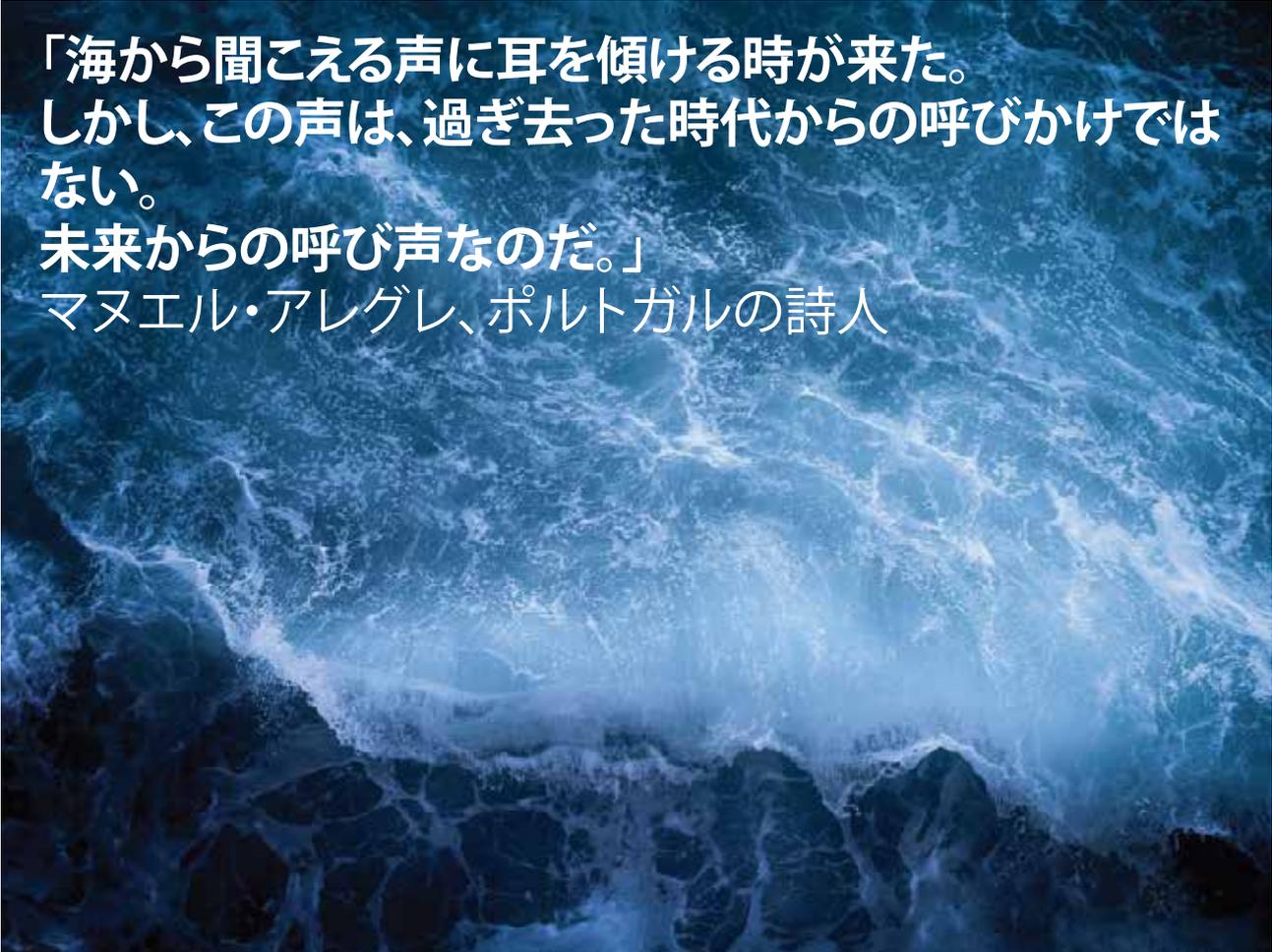
ポルトガルは、2025年大阪・関西万博で、海洋に関する科学的および経済的な研究分野でのリーダーシップを確立することを目指しています。同国の歴史と科学、知識、芸術、文化の歴史を直接結びつける形で、ポルトガルの参加は、「健全な」海洋の重要性についての意識を高め、共通の理解を深めることに貢献しようとしています。また、政府、公共機関、企業、NGO (非政府組織) 間の戦略的パートナーシップが、地球規模の連帯を促進し、人類の未来に前向きな影響を与える解決策の開発に不可欠であることを示すことも目指しています。

この参加を通じて、ポルトガルは、ブルーエコノミーに関連する分野の組織間での専門的な交流や特定のノウハウの共有を促進するとともに、ポルトガルの学術コミュニティの優れた実績と企業との連携を評価し、科学プロジェクトを紹介することで、国内外の組

織間の協力や知識交換を推進することを目指しています。また、ポルトガルの文化を広め、国際市場でポルトガルの才能や創造的資本を活性化させ、さらにポルトガルへの訪問、発見、投資意欲を喚起することも目標としています。

大阪では、6か月間にわたり、科学、イノベーション、経済、教育、文化など、さまざまな分野のプロジェクトが紹介され、この分野に対するポルトガルの戦略的取り組みが示されます。ポルトガルの代表は、省庁、自治体、企業、団体間のさまざまな協力を通じて構築され、地理的および分野的な代表性を確保するとともに、オセアノ・アズール財団、カルースト・グルベンキアン財団、アヴェイロ大学、カトリカ大学、ノヴァ大学などの組織との戦略的パートナーシップを確立しました。

ポルトガルが参加した過去3回の万国博覧会は、2008年のサラゴサ、2010年の上海、そして2021年のドバイです。



**「海から聞こえる声に耳を傾ける時が来た。
しかし、この声は、過ぎ去った時代からの呼びかけではない。
未来からの呼び声なのだ。」**
マヌエル・アレグレ、ポルトガルの詩人

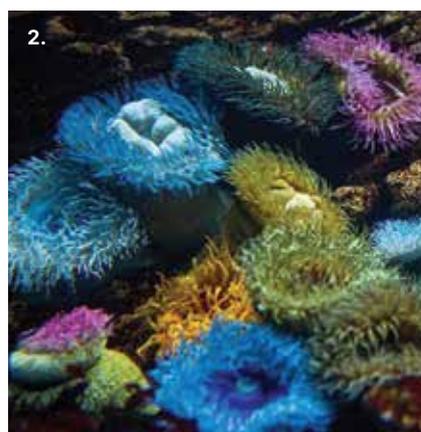
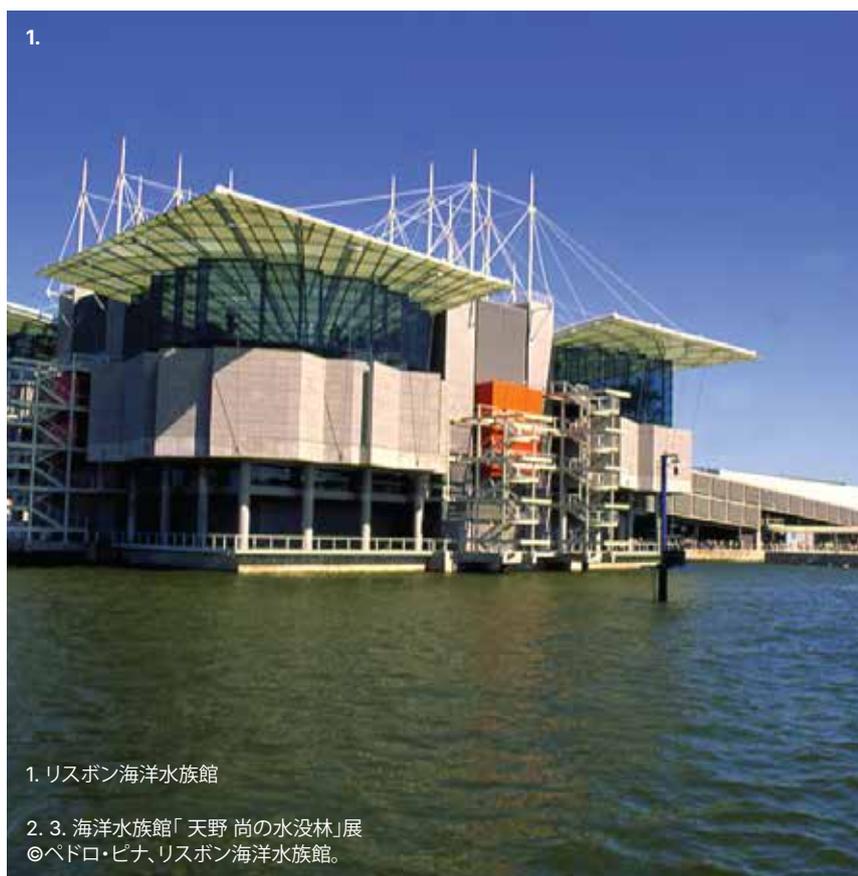
ソサエティー5.0に向けた青の対話

ポルトガルのエキスポ 2025 参加の中心テーマは、「海、青の対話」です。これは、エキスポ'98の世界観と、ポルトガルと日本を結びつけた歴史的な過去、そして現在の海洋政策のリーダーとしてのポルトガルの姿を融合させたものです。これは、展示会のグローバルコンセプトである「ソサエティー5.0」に対するポルトガルの貢献です。

これは日本政府の戦略であり、すべての国民が潜在能力を発揮し、人口減少、高齢化、エネルギー不足、環境破壊などの社会問題を解決できる、持続可能で包括的な社会経済システムを提唱しています。約500年前にポルトガルと日本の「出会い」を可能にした海は、他にはないイベントや展示のプログラムを通じて、2025年大阪万博の来場者に、経済の牽引役としての海や海洋の重要性、そしてソサエティー 5.0

のコンセプト実現に関連するイノベーションの源泉であることを示します。

ポルトガルは、この展示会への参加を、プロジェクトの推進や企業、学界、NGO、政府機関間の実りあるパートナーシップを通じて、国内外でSDG 14とSDG 7の達成に向けた取り組みを推進する機会と捉えています。



この国際博覧会の最も特徴的な点は、思考だけでなく行動を通じて未来社会の現実的な姿を描き出そうとする努力です。この会場を新しい技術やシステムをテストする実験場として位置付け、さまざまな主体によるイノベーションの創出を刺激し、それを会場に適用することを意図しています。



パビリオン



日本の建築家、隈研吾氏が設計したポルトガルパビリオンは、持続可能性と循環型経済の概念に沿って、最高の技術と環境慣行に従い、来場者が海に飛び込んで海を発見するよう誘います。

日本の建築家、隈研吾氏が設計したポルトガルパビリオンは、持続可能性と循環型経済の概念に沿って、最高の技術と環境慣行に従い、来場者が海に飛び込んで海を発見するよう誘います。

この建築プロジェクトは、吊り下げられたロープとリサイクルされたネットを使用して空間を解体し、太陽や風などの自然の要素にさらされる永続的な効果を

生み出し、海の動きのダイナミズムを表現しています。この建築プロジェクトは、吊り下げられたロープとリサイクルされたネットを使用して空間を解体し、太陽や風などの自然の要素にさらされる永続的な効果を生み出し、海の動きのダイナミクスを表現しています。パビリオンのボリュームは、波のように吊り下げられた上部の広場を象徴する景観インスタレーションに

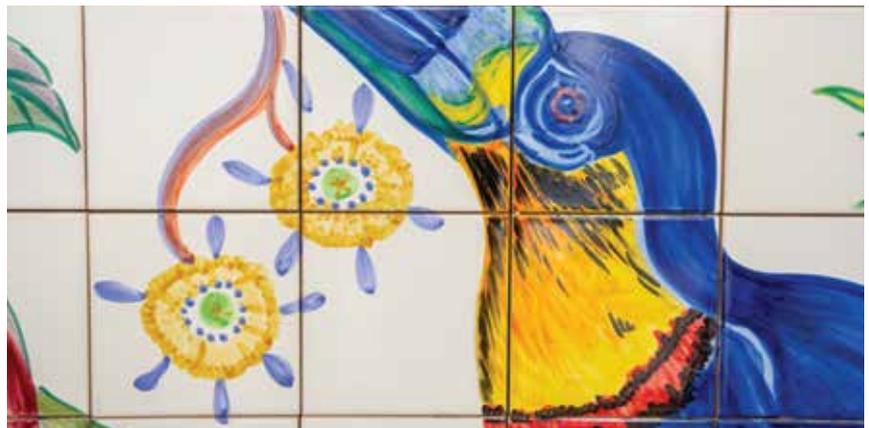


よって特徴付けられ、訪れる人々や外を通過する人々に印象的なイメージを作り出します。

2025年大阪万博会場の「いのちに力を与える」エリアに位置するポルトガルパビリオンは、戦略的な立地の恩恵を受けるとともに、2025年大阪万博の「大屋根リング」と交流できるユニークなスペースも提供しています。

展示スペースに加え、ショップ、ポルトガル料理のプロモーションに特化したレストランスペース、さまざまなイベントを開催できる多目的スペースも設けられます。

このショップは、ポルトガルの博覧会参加のテーマに合わせたコンセプトを持ち、海洋とその保護に焦点を当て、コルク、ブレル、籐などポルトガル産の強い個性を持つ天然素材で作られた、環境に配慮したデザインの製品を推進します。ピン、バッグ、ペン、ノート、Tシャツ、スウェットシャツ、イラストなど、ポルトガルの参加商品も販売されます。



海の過去、現在、未来を巡る旅



2025年国際博覧会のポルトガルパビリオンで開催される展示のモットーは、「過去、現在、そして未来を海とともに築く国」です。2つのエリアで展示され、持続可能な未来のために、知識の共有とパートナーシップを推進しています。

ポルトガルの企業MUSEによってデザインされた展示は、多様な芸術的表現、歴史的な物語、そして海に関する知識が融合しています。私たちは、約500年にわたってポルトガルと日本を結びつけ、ポルトガルの未来を形作り続けている遺産を、お互いの好奇心を持って探求します。訪問者は、歴史的なつながりについてだけでなく、ポルトガルが現在どのように海と関わっているか、そしてそれが地球上の生命にとっていかに重要な資源であるかを学ぶ機会が得られます。訪問者を没入型でインタラクティブなマルチメディア体験に引き込むように設計された「持続可能な未来のためのパートナーシップ」セクションでは、海洋保護の緊急性を強調しています。

この展示は、現代の環境問題から始まり、持続可能な

未来への希望を与える「素晴らしいユートピア」に至る旅に一般の人々を誘います。

人類と海が持続的に共存するというビジョンの本質を捉えた、200m²のスペースのために特別に制作された他にはない5分間のアート作品です。この体験は、さまざまなテクノロジーを駆使することで、来場者を共同創造者に変え、海とともにある私たちの集成的な未来についての対話に貢献するよう誘います。パビリオン入場待ちのためのエリアでは、訪問者はポルトガルに関する情報や、海の音とポルトガルギターにインスピレーションを得て、作曲家ディオゴ・アルヴィンが制作したサウンドインスタレーションを鑑賞することができます。

Diogo Alvim



大阪における経済、科学、教育、文化

ポルトガルのプログラムは、経済、科学、環境、教育、文化、芸術など多岐にわたる分野を網羅し、184日間にわたる大阪万博の期間中、展示、コンサート、ワークショップを開催し、オセアノ・アズール財団、カルースト・グルベンキアン財団、大学、地方自治体など多様な団体と提携しています。

経済分野では、Docapesca、Tunipex、Fórum Oceano など、ブルーエコノミーの分野で活動する企業が注目されますが、コルク（Corticeira AmorimとCorkRibas）、モビリティ（AbimotaとSmartuga）、航空宇宙産業（Portuguese Space Agency）、繊維部門（CENIT、ATP）など、ポルトガルが投資する他の分野でも際立っています。

科学と高等教育も、INOVAMAR、INL（国際イベリアナテクノロジー研究所）などの組織や、カトリカ大学、コインブラ大学、アヴェイロ大学、ノヴァ大学、INESC TECなどの学術機関の参加を通じて大きな存在感を示すこととなります。

国の多様性の豊かさと各地域の戦略的利益を反映して、様々な地域と都市が独自のプログラムで紹介されます。リスボン、ポルト、オビドス、アヴェイロ、コインブラの各市議会に加え、大阪にはドウロ地方（CIMドウロを通じて）、アレンテージョ地方（CCDR）、マデイラ諸島およびアゾレス諸島の自治州などが参加する予定です。

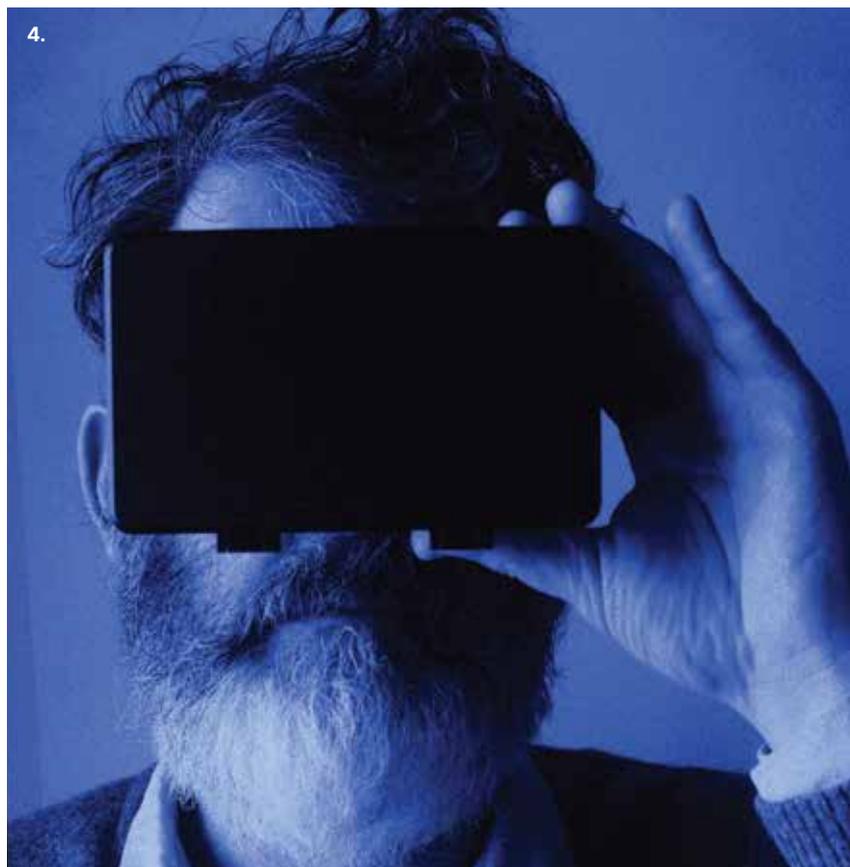
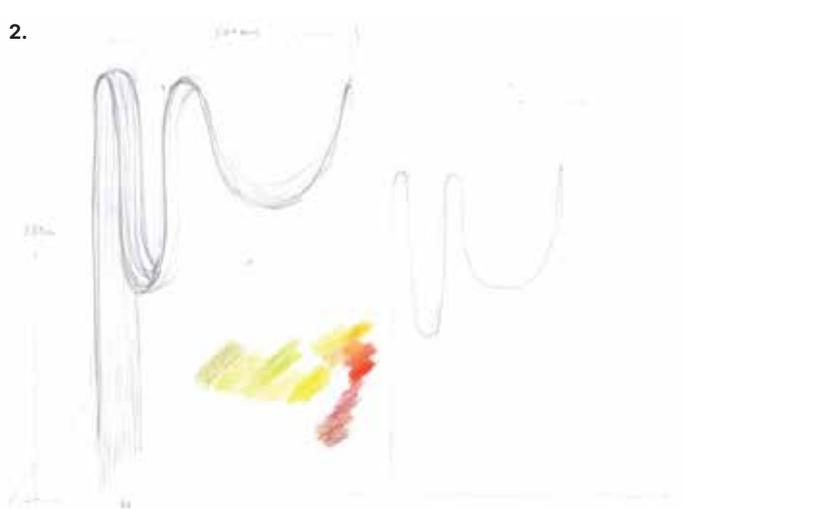
ポルトガルは、直接またはこれらの団体と提携して、6か月間にわたり、ポルトガル建築の展示（アルヴァロ・シザ、マヌエル・アイレス・マテウス、リカルド・バク・ゴードン、イネス・ロボ、およびアンドレイア・ガルシアのキュレーションによる23の若手建築家のスタジオによる展覧会などが予定されています）に重点を置き、さまざまな芸術・文化分野を網羅する展示会、ワークショップ、コンサートを開催します。

グラフィックデザインでは、アトリエ・バルバラ・セイズの展示を通じて、美術工芸ではDGアルテスのSaber Fazerプログラムを通じて、そしてフェルナンダ・フラガテイロ、ダニエル・ブラウフクス、アナ・アラガン、アド・フューエル、ヴァネッサ・アラガンなどのビジュアルアーティストたちも大阪に登場します。

音楽では、ディノ・ダ・サンティアゴ、ブルーノ・ペルナダス、ジュリオ・レゼンデ、カルミーニョなどのアーティストが、大阪万博のさまざまな場面でポルトガルを代表します。5月5日の世界ポルトガル語の日には、2025



プレス資料 2025年大阪万博に おけるポルトガル



1. Fernanda Fragateiro
2. Fernanda Fragateiro
3. Ana Aragão
4. Daniel Blaufuks

年ポルトガル万博公式日を記念した特別プログラムが開催されます。

注目すべきは、建築家アルヴァロ・シザの作品に捧げられた展覧会の開幕であり、これは2024年にリスボンでカルースト・グルベンキアン財団が開催する大規模な展覧会の一部です。

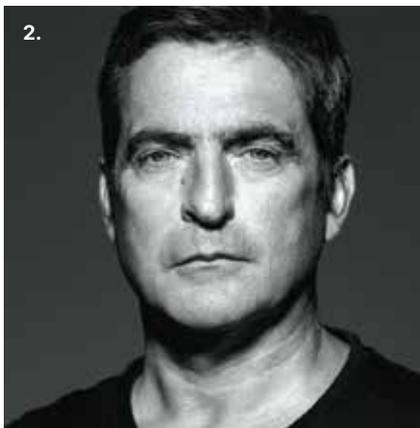
音楽分野ではアマリア・ロドリゲスへのオマージュと

して、リスボン市との共催で、ファド歌手アナ・モウラ、カマネ、リカルド・リベイロの歌声と、ジョゼ・マヌエル・ネット（ポルトガル・ギター）、ペドロ・ソアレス（ファド・ギター）、ダニエル・ピント（ベース・ギター）のファド・トリオが共演するコンサート「No Tempo das Cerejas（桜の時）」を開催します。

アマリア・ロドリゲスが日本におけるファドの導入と普及に重要な役割を果たしたことは忘れてはなりません。アマリアが日本で初めて歌ったのは、1970年、大阪で開催された万博のポルトガルデーの祝賀会でした。



1. Ana Moura
2. Camané
3. Concerto
4. Ricardo Ribeiro



プレス資料
2025年大阪万博に
おけるポルトガル



日の祝賀イベントの一環として、6月10日に大阪で公演を行います。





パンゲア、大阪万博ポルトガル公式テーマ曲



現在オランダのコダーツ・ロッテルダムでジャズ作曲の高等教育を終えようとしている若手作曲家マキシモ・フランシスコは、大阪万博におけるポルトガルの公式テーマ曲「パンゲア」を作曲、録音、発表しました。

「パンゲアは2億年前に存在した、現在の私達が知るすべての大陸がひとつに結びついた超大陸であり、一つの生物圏のみが存在しました。これは気候変動との闘いにおける集団的で団結した社会の必要性を表現するのに、良い比喩だと思いました」。パンゲア

は、この環境保護のメッセージを携えて、2025年大阪万博で披露され、ポルトガルパビリオンで若手作曲家と新進ピアニストによるコンサートが開催されます。



Máximo Francisco. Créditos Arlindo Camacho

ポルトガルのプログラム 184日間の文化、経済、 音楽、芸術、デザイン、そして建築



1. Júlio Resende
2. LiDA e Santos Barosa
3. Bruno Pernardas. Créditos Vera Marmelo
4. Dino d'Santiago e Branko
5. Ana Aragão



ARQUITETURA



1. Siza Vieira
2. Ricardo Carvalho
3. Back Gordon
4. Aires Mateus
5. Inês Lobo



プレス資料
2025年大阪万博に
おけるポルトガル



Andreia Garcia
Atelier local
Sami
Atelier cru
Luísa Bebiano
Rita Aguiar Rodrigues

Diogo Aguiar
Pura atelier
Nuno Melo Sousa
Summary
Miguel Marcelino
JQTS

Cabinnet
Circunflexo
Barão-Huter
In vitro
Mero
Inês Pimentel

Campo arquitectura
Conde Paradela
Patrícia da Silva



ポルトガルにおける大阪



ポルトガルの2025年大阪万博への参加の一環として、両国間の絆を強化することを目的とした活動を含む大規模な文化プログラムが、ポルトガル国内で展開されています。ポルトガルにおける大阪プログラムは2024年11月30日に始まり、2025年を通じてポルトガルのさまざまな地域でイベントが予定されています。

様々な国立機関や団体と連携して、展示会、会議、映画上映会、コンサート、その他のパフォーマンスを開催し、一般の人々が日本文化や、ポルトガルと日本を結びつける歴史的、現代的な関係に理解を深める機会を提供します。

国の芸術計画との連携により、2025年中にポルトガル国内60校以上の学校が海洋の重要性について学び、日本についての知識を探求する予定です。



ポルトガルのマスコット、ウミ

ポルトガルの公式マスコットは、ポルトガルと日本の強くて永続的な絆を象徴するタツノオトシゴです。ウミは単なるキャラクターではなく、海との共通のつながりに根ざした文化、歴史、未来のビジョンの融合を表しています。



マスコットの名前「ウミ」は日本語で「海」を意味し、約500年前にポルトガルと日本が「出会う」ことを可能にした要素です。タツノオトシゴは、海との結びつきとそれが象徴する価値観から、ウミの形状として選ばれました。小さくてもたくましいタツノオトシゴは、穏やかさと決意をもって海の流れに立ち向かう逞しい生き物です。その特徴は、強固で永続的な協力関係を築く両国の忍耐力と強さを反映しています。

ウミは、親しみやすい外観と深い本質をもって、すべての来場者に海を大切にすることの重要性について考え、より持続可能で包括的な世界を構築する上での世界的なパートナーシップの重要性を認識するよう呼びかけています。ウミは単なるマスコットではありません。それは、共通の旅路の反映であり、地球への敬意に基づいて国家間の協力が行われる未来への希望です。

ポルトガルについて



ポルトガルは、ほぼ 9 世紀にわたる歴史を持ち、革新的で洗練された未来志向の国として知られ、持続可能性は産業にとっての重要な課題であり、最優先事項となっています。ポルトガルは、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸の合流点に位置し、EU加盟国でありユーロ圏に属していることから、理想的なビジネス パートナーといえます。

主要な国際ランキングでは、ポルトガルは政治的、社会的に安定した安全な国であると同時に、気候変動対策に最も力を入れている国のひとつであり、再生可能エネルギーへの投資が最も盛んな国です。この国はまた、2023年に約3,000万人の観光客を迎え、7,700万泊の宿泊と250億ユーロの収益(2022年比18.5%増)を生み出し、過去最高の観光実績を更新し、主要な観光地としての地位を確立しています。

ポルトガル(ポルトガル本土、マデイラ諸島、アソー

レス諸島)は、約2,500kmの海岸線と世界最大級の排他的経済水域 (EEZ) を有し、その面積は170万km²に及び、多様な生態系と資源が存在します。この広大な海域により、ポルトガルはEUの海域の約48%を管轄する国となっています。

現在、国連では大陸棚を200海里以上に延長することを目指した境界画定作業が進行中であり、これによりポルトガルの主権または管轄権の下にある海域の面積は410万km²に拡大することになります。

AICEPについて

AICEP (ポルトガル投資貿易庁) は、2025年大阪万博へのポルトガルの参加を組織・運営する公的機関であり、ポルトガル国内および約50の市場における対外ネットワークを通じて、生産性の高い投資の誘致とポルトガル経済の国際化を推進し、輸出の増加と企業の国際進出を促進しています。



AICEP

Agência para o Investimento
e Comércio Externo de Portugal

2025年大阪万博におけるポルトガル



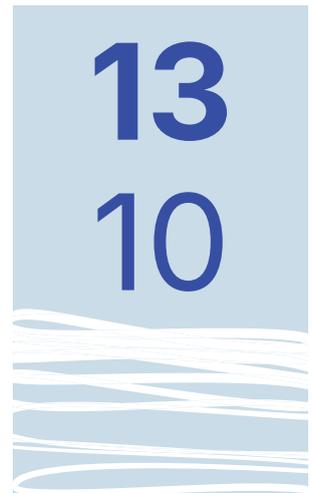
開幕



万博でのポルトガルの日



ポルトガル、カモンイス、ポルトガル共同体の日



閉幕



パートナー

協会

ABIMOTA
Associação Nacional das
Indústrias de Duas Rodas

AEP
Associação Empresarial
de Portugal

AIDA
Câmara de Comércio
e Indústria do Distrito
de Aveiro

AIMMP
Associação das Indústrias
de Madeira e Mobiliário
de Portugal

ASSIMAGRA
Associação Portuguesa
da Indústria dos Recursos
Minerais

Associação Smart Waste
Portugal

ASSOFT
Associação Portuguesa
de Software

ATP
Associação Têxtil e Vestuário
de Portugal

CCILJ
Câmara de Comércio
e Indústria Luso-Japonesa

CEiA
Centro de Engenharia
e Desenvolvimento

CENIT
Centro de Inteligência Têxtil

Fórum Oceano

Health Cluster Portugal

Portugal Foods

Startup Portugal

企業

A Poveira

Adico

Amorim

Avenida da Liberdade Editores

Bordallo Pinheiro

Burel Factory

Casa Santos Lima

Chulé

Conservas Pinhais

CorksRibas

Corticeira Amorim

Costa Nova

Cutipol

Delta

Dilúvio Editora

Exotictarget - Ablute

Fapil

Feitoria do Cacao

Fundação Calouste
Gulbenkian

Gorreana

Krv Kurva Design

Longlife

Manulena

Origem Comum

Portugal Jewels

Ramirez

企業

Revigrés

Serra Mel

Smartuga

Sock Affairs

Sogrape

SPI Sociedade Portuguesa de
Inovação

Splink

Tunipex

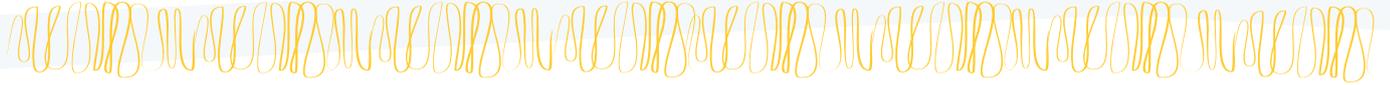
Vera Cruz Almonds

Viarco

Vista Alegre

Viúva Lamego

PARCEIROS



公的機関

Agência Espacial Portuguesa
Câmara Municipal de Aveiro
Câmara Municipal de Lisboa
Câmara Municipal de Óbidos
Câmara Municipal do Porto
CCDR Alentejo
Comunidade Intermunicipal
de Coimbra
Comunidade Intermunicipal
de Viseu Dão Lafões
Comunidade Intermunicipal
do Douro
Comunidade Intermunicipal
do Médio Tejo
DOCAPESCA
Portos e Lotas
Turismo do Porto e Norte
de Portugal
Região Autónoma da Madeira
Região Autónoma dos Açores

教育・科学

Faculdade de Arquitectura
da Universidade de Lisboa
Fundação Oceano Azul
INESC TEC
INL
International Iberian
Nanotechnology Laboratory
LiDA
Laboratório de Investigação
em Design e Artes
Oceanário de Lisboa
Universidade Católica
Portuguesa
Universidade de Aveiro
Universidade de Coimbra
Universidade Nova de Lisboa

文化

Atelier barbara says
Fundação Calouste
Gulbenkian
DG Artes
Direção-Geral das Artes
DGLAB
Direção-Geral do Livro,
dos Arquivos e das Bibliotecas
Museus e Monumentos
Santa Casa Misericórdia
Lisboa
Casa da Ásia
Museu de São Roque
Fundação Oriente
Plano Nacional das Artes

プレス資料
2025年大阪万博に
おけるポルトガル



2025年大阪万博へのポルトガルの参加をフォローしよう!
Siga-nos em 私たちをフォローしてください。



ポルトガル語、英語、日本語の**公式ウェブサイト**をご覧ください。

お問い合わせは media.expoosaka@portugalglobal.pt まで。

